

子どもがかかりやすい伝染病のしおり

伝染病における一般的な注意事項

- 感染の予防** 1、症状のある子は家でゆっくり休養させる。強い菌をもらわないために、重症児には近づかない
2、手洗いうがい、食物の清潔、ハエ・ゴキブリの退治などをして感染を予防する
- 発病の予防** 1、普段から丈夫な体をつくっておく（薄着の習慣、適度な運動を心がける。栄養に気を付け、睡眠不足に注意）
2、予防接種を受ける
- 病気になったら** 1、早く見つける（健康時の子どもの状態をよく知っておく）
2、早く治療する（安静、栄養、合併症に注意して子どもの状態をよく見る）

病名	潜伏期・病原体の所在	病状	予防・その他の注意	園を休ませる期間
インフルエンザ	1日～3日 患者のつば・たん	<ul style="list-style-type: none"> ・突然の38度以上の高熱が3日ほど続く ・激しい咳・のどの痛み・咽痛・鼻水・関節の痛み・筋肉痛 ・下痢や嘔吐を伴うこともある ・気管支炎・肺炎・脳炎も併発しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱の続く間、咳・くしゃみからうつる ・栄養・睡眠不足に注意する ・平常から厚着を避ける ・早期に手当てし、医師の指示に従う ・12月上旬ごろから流行するので、秋ごろに予防接種を受ける 	発熱後5日を経過し、かつ解熱後3日経過するまでは登園停止
麻疹 (はしか)	10日～12日間 患者のつば・たん・鼻汁	<ul style="list-style-type: none"> ・38度近い発熱と、咳・鼻水など風邪に似た症状 ・ほおの内側に出る白い斑点（コプリック斑）が特徴 ・全身に出る赤く細かい発疹 	<ul style="list-style-type: none"> ・発疹の出る前4日、出た後5日くらいの間に咳、くしゃみからうつる ・肺炎・脳炎・中耳炎などの合併症が恐ろしい ・解熱後1週間以内に再び発熱が見られる時は合併症が考えられるのですぐに医師の指示を受ける ・1才を過ぎると麻疹風疹混合ワクチン（MR混合）を公費で接種できる。その効果は95%といわれている 	熱が下がってから3日経過するまでは登園停止
風疹 (三日ばしか)	14日～21日間 患者のつば・たん	<ul style="list-style-type: none"> ・38度前後の熱、耳の後ろのリンパ節の腫れ、目の充血 ・発熱と同時に腕や顔などから赤くかゆみを伴う発疹が全身に広がる ・3～5日で発疹が消える 	<ul style="list-style-type: none"> ・発疹が出る前日から約7日間くらいうつる ・はしかと同じように流行するので間違いない ・麻疹と同じように1才を過ぎるとMR混合ワクチンを公費で接種できる ・麻疹ほど熱は出ないので発疹が出て子どもは比較的元気にしている。無理に寝かせる必要はないが、自宅で安静に過ごす 	発疹が消えるまでは登園停止
百日咳	7日～10日 患者のつば・たん	<ul style="list-style-type: none"> ・くしゃみや咳、鼻水など ・1～2週間たつとコンコンと激しく咳込む（1回の咳は2～3分続く） ・息を吸うときのヒューヒューという特有の音 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽い咳の出始めから3週間くらいうつる ・処方された抗生薬を決められた時間服用して治す ・生後3か月から公費で接種できる三種混合（DPT）ワクチンがある 	特有の咳がなくなるまでまたは、5日間の抗生物質による治療が終了するまで登園停止
水痘 (みずぼうそう)	11日～21日間 患者のつば・たん・水泡	<ul style="list-style-type: none"> ・37度～38度の微熱 ・かゆみの強い赤い発疹が顔から全身に、顔部まで広がる ・赤い発疹が水泡になる ・水泡がにごり、赤黒いかさぶたになって治っていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・発疹の初期水泡が出てから1週間は最も伝染力が強い ・子どもの、汚れがついた手でかきむしると、化膿することがあるので爪は短く切り、手指の清潔に気を付ける ・1才から希望者は自費で予防接種を受けられる。またウイルスが体内に入っても3日以内に接種すればある程度の効果が見られる 	全ての発疹がかさぶたになるまで登園停止
流行性結膜炎 (はやり目)	5日～12日 患者の目やに	<ul style="list-style-type: none"> ・目の充血、目やに、まぶたの腫れ ・ひどくなると発熱や下痢を起こす事も 	<ul style="list-style-type: none"> ・初期ほど伝染力が強く、手、洗面器、手拭きタオルなどから接触感染する。プールも危険 ・早期発見、治療を徹底する 	目の充血や目やになど症状がなくなるまで登園停止
RSウイルス感染症	2日～8日 患者のつば・たん	<ul style="list-style-type: none"> ・鼻水や咳 ・38度～39度の高熱 ・ゼイゼイという呼吸音 ・悪化すると呼吸困難になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・予防接種がなく、母体からの免疫も効かないため6か月未満の乳児もかかる ・大人や年長児が感染しても風邪の症状程度ですむ。しかし年齢が低いほど重症化しやすい 	呼吸器の症状がなくなり、全身状態が良ければ登園可能
手足口病	3日～5日 有熱期の便・水泡	<ul style="list-style-type: none"> ・手のひら、おしり、足の裏、口の中などにできる赤い発疹や、米粒大の水泡 ・発熱、下痢、嘔吐を伴うこともある 	<ul style="list-style-type: none"> ・安静が必要。一般に軽いが神経に合併症を起こす事があるので頭痛、嘔吐等があればすぐに医師の指示を受けること 	熱が下がり、水泡が全てかさぶたになるまで登園停止